

Q14 忘れ物が多いのですが・・・

【考えられる背景】

- 短期記憶に弱さがあるので、聞いたことを思い出すことができない
- 不注意という特性のため、持って行く物を一つ一つ確認しながら準備することができない

【支援への手がかり】

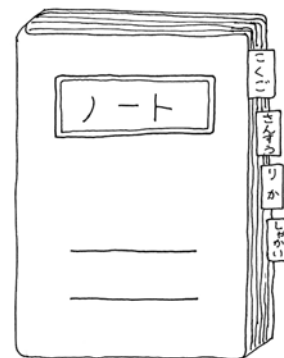
☆ メモをとる

「大切なことはメモをとる」ということを練習したり、習慣化するように考えてみましょう。連絡帳を書く時間を毎日の学校生活の中に設定し、書きぬかりがないか確認します。連絡帳も子どもの実態に合わせ、明日の時間割や宿題、家庭への配布物等をひとまとめにできる専用のファイルを工夫することも効果的です。

このとき大切なことは、「連絡帳はカバンのこのポケットにしまう」「特別教室へ移動するときはこの表で持ち物を確認する」といったことをルールとして決め、習慣化することです。一貫した根気強い指導と、家庭での協力が得られるような取組が大切になります。

☆ 視覚的に分かりやすい方法を工夫する

時間割にそって準備をする際、時間割表の見方が分からない子どもや、時間割表のどこを見ていたのかが分からなくなってしまう子どもがいます。こうしたときは曜日ごとの時間割表を作ったり、1校時ごとにシールを貼りながら時間割りをすると間違いや見落としが少なくなります。また、学習する内容を絵カードにして視覚的に分かりやすくするなどの工夫も効果的です。



☆ 発想の転換をする

通常ならば各教科ごとにノートを準備しますが、こうしたやり方だと忘れてしまうことがどうしても多くなってしまいます。そこで発想を変えて、ノートを一冊のファイルにしてしまうことも効果的です。こうすれば準備の際に見落として忘れてしまうことも少なくなりますし、特別教室へノートを持って行く際も忘れることが少なくなると思われます。

☆ 忘れ物をしたときの対処の仕方を身につける

忘れ物が少なくなるようにする工夫も大切ですが、忘れ物をしたときにどう対処するのか（ソーシャルスキル）を身につけることも大切です。
「先生、～を忘れました。」「～を忘れたので貸してください」と担任や友だちへ頼むことや「～を貸してくれてありがとう。助かりました。」とお礼を言うことなどをスキルとして身につけるようにします。